

木戸グループ 学会参加報告書

表 1 参加学会名および参加者

学会名 Conference name	令和 8 年度土木学会全国大会 第 81 回年次学術講演会 81st Annual Meeting of the Japan Society of Civil Engineers (JSCE)
参加者 Participants	1) 木戸 隆之祐 (准教授) Ryunosuke Kido (Assoc. Prof) 2) 玉置 尊 (M2) Takeru Tamaoki (M2) 3) 前原小春 (B4, 2026 年卒業) Koharu Machara (B4, Graduating in 2026)

表 2 参加学会名および参加者

1) 木戸隆之祐, 蒲 侑花, 畠 俊郎: 鋼管杭の鉛直支持力向上に対する MICP の有効性—模型実験による検討—, 令和 8 年度土木学会全国大会第 81 回年次学術講演会, III-574, 2026.
2) 玉置 尊, 木戸隆之祐: 水の浸透と繰返し载荷に伴う補強材敷設地盤の地盤変形挙動の可視化, 令和 8 年度土木学会全国大会第 81 回年次学術講演会, III-110, 2026.
3) 前原 小春, 木戸 隆之祐: 一次元圧縮条件下での不連続粒度を有する粒状体の接触力分布に関する DEM 解析, 令和 8 年度土木学会全国大会第 81 回年次学術講演会, III-414, 2026.

参加報告 (玉置)

- 質疑: 株式会社高速道路総合技術研究所の森様から, 研究成果を実務に生かす際にどの部分で活かすのかという質問を受けた. これについては, 現状では補強土壁の維持管理の際に活かせるのではないかと考えており, 本研究が進展していくと, 実際に現場で行われる帯鋼補強土壁の補強材引抜き試験から得られる引抜き抵抗力を比較・整合することで, 帯鋼補強土壁が現在どういう状況であるかを明らかにすることで (安全側か危険側か), 合理的な維持管理につながり, 補強土壁の合理的な維持管理を行うための基礎データになり得ると説明をした.
- 学会参加の感想: 今回の学会では, 大学や高等専門学校の教員のみならず, 企業の実務に携わる技術者の方々も多数参加されていました. 発表後の質疑応答では, 学術的な観点にとどまらず, 現場への適用性に関する具体的なご質問を多くいただき, 大変有意義な機会となりました. 今回得られた知見を, 今後の研究活動に活かしていきたいです.

発表時の写真

木戸グループ 学会参加報告書



写真-1 発表時の写真（木戸）



写真-2 発表時の写真（玉置）

木戸グループ 学会参加報告書



写真-3 発表時の写真（前原）

集合写真



写真-4 集合写真

木戸グループ 学会参加報告書

学会中に訪れた場所の写真

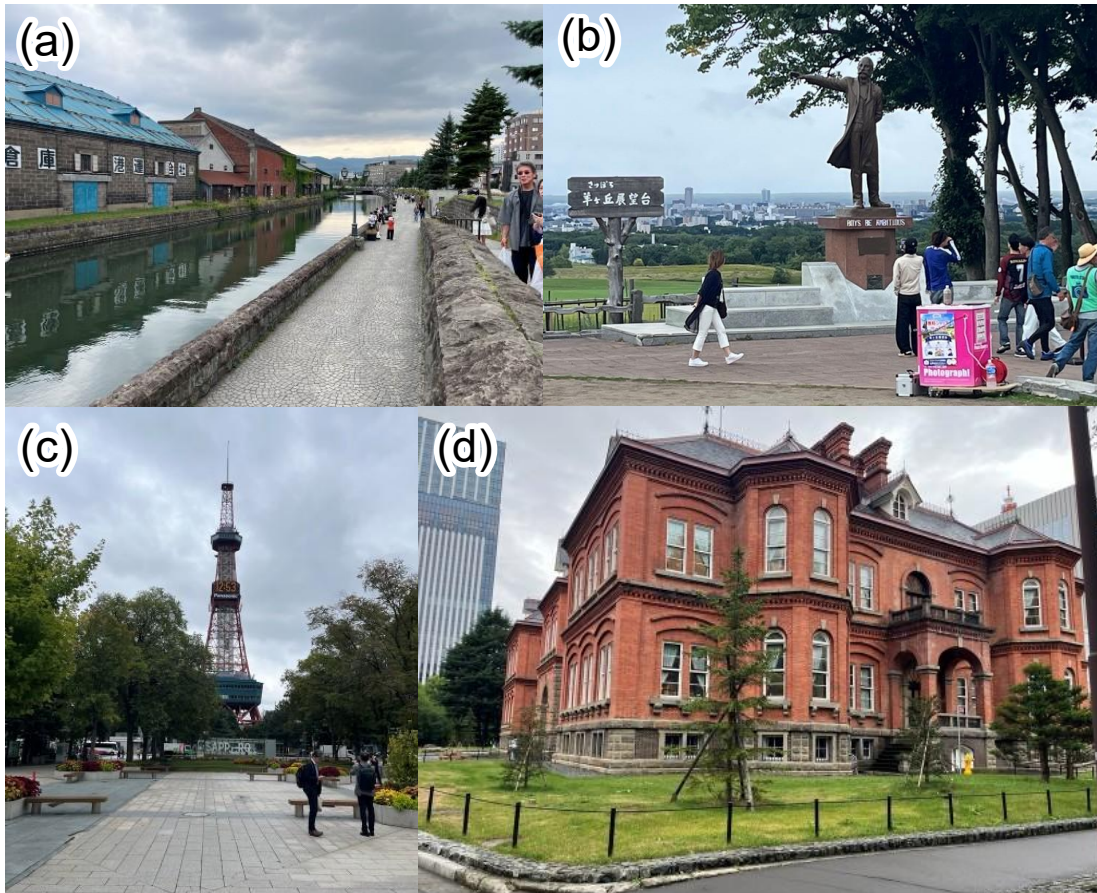


写真-5 学会中に訪れた場所：(a)小樽運河，(b)さっぽろ羊ヶ丘展望台，(c)さっぽろテレビ塔，(d) 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）